

三浦市立初声小学校

研究テーマ

「自らの想いをもち、伝え合う子の育成」

1 実践の目的

前年度に引き続きグランドデザインを元にした研究に取り組み、重点目標を「自らの想いをもち、伝え合う子の育成」とした。児童の実態として「自らの想いをもち、伝え合う力」がさらに必要と考えた。今年度も内容や方法を工夫しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組みたいと考え、本テーマを設定した。

2 実践の内容

(1) 校内研究体制

各学年に研究推進委員を置き、研究内容を全体に共有できるようにした。

また単元や授業案の検討を充実させるため、各学年→学年部（低・中・高）→拡大研究推進委員会（研推＋学年部）→全体会で行った。

(2) 研究内容

① 生活・総合を中心に研究テーマにつながる単元・授業作り

教科横断的な取り組みを進め、学びを深めるカリキュラム・マネジメントを目指した。

年度当初に生活科・総合の単元作りについての研修会を行った後、学年で教材研究や単元作りに取り組んだ。また外部講師による総合の単元づくりについての研修会を行い、夏休み最後に学年で作成した単元の検討を全学年行った。

② 研究テーマ・重点目標につながる有効な手立て

指導案の中に「研究主題との関わり」という項目を設け、授業者が単元・本時でどのようなねらいを持って具体的に子どもたちの学びを深めようとしているか明らかにした。

また授業後の協議会では研究テーマや重点目標につながる有効な手立てを整理し共有した。

③ 自己肯定感・非認知能力を高める取り組み

自らの想いをもち、伝え合う力が必要であるという児童の実態から、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを目指した。

また、個別最適な学びの具体を知るために交流級の担任を中心に支援級在籍児童の個別の授業を参観した。

さらに児童指導の研修ではあるが、外部講師を招聘し、認知行動療法を取り入れた授業づくりについての研修も行った。

(3) 研究授業、研究協議の様子

① 研究授業について

本校は一学年2～3クラスであり、今年度は学年で単元を計画し一人一授業を実施した。また生活科・総合の代表授業として低中高学年部で1授業ずつ行い、全体での授業案検討・協議会を持ち研究を深めた。

また前述の通り、個別最適な学びの視点から特別支援学級の研究授業も実施した。

②協議会について

PDCA サイクルを活用し研究授業後の協議会を充実させた。何が課題で何が成果だったのかを分析し、単元の見直しや有効な手立ての共有を大切にした。それにより次の研究授業に具体的にいかせるようにし、授業を見る視点も明確になった。

担当学年、担当教科、経験年数、研究に対する温度差に関わらず校内研究が皆のものになるように、協議会でも研究授業についての意見を共有したが、さらに研究推進委員会で具体的にまとめ、次の研究全体会で共通理解を図った。

3 実践の成果と課題

(1) 成果

今年度の研究を振り返り、教員からは「授業研究から総合のテーマ設定や単元作りの仕方や有効な手立てを具体的に知ることができた。」という意見が多くあった。さらに「授業の作り方、総合を通してのクラス運営のしかたも学びたい。」「児童が『もっとやりたい』という思いを生み出す単元作りや方法の引き出しを増やしたい。」と来年度に向けての意欲も持っている。

以下、今年度の授業研究から単元作りや授業作りの視点として挙げられた。

- ・学びが深まるような活動と活動をつなげた単元計画
- ・体験をいかした単元の見直し、体験できないときの展開の工夫
- ・個々の考えや情報を持つための手立て
- ・ねらいに合った深い学びにつながる発問や展開の工夫
- ・思考の助けとなるワークシートの活用
- ・学びを深める効果的なグループ活動
- ・話し合いの方向性が見える視点の提示
- ・話し合いを深める方法

(2) 課題

主体的・対話的で深い学びにつながる総合の単元作りについてまだまだ難しさを感じているところも多く、長い単元の取り組みでは、PDCA サイクルを活用し、ねらいや子どもたちの学びに合わせて、当初の単元計画を見直しながら学びを深めていくことが必要である。そこでやはり教師の教材研究の重要性も挙げられた。

また、多くの授業を参観し具体的な手立てを知ることができたが、単なるグループ活動が協働的な学びになるわけではないように、その単元・授業のねらいに合った手立ての活用を考える必要がある。

さらに個別最適な学び・協働的な学びという具体的な子どもたちの学ぶ姿の認識に教員間でズレがあり十分に共有していくことも必要である。

4 今後の展開

テーマ設定、ねらい、教材、学習活動、有効な手立てなど多くを学んだが、それらをどう組み立て深い学びにつなげていくか、今年度の研究内容をさらに深め、生活科・総合を中心に単元・授業作りについて研究を推進していきたい。

また研究テーマ・重点目標に迫る単元・授業作りの共通した視点は他教科のどの授業にも生かすことができる。特別支援学級・専科なども含め、学校全体として取り組んでいきたい。

子どもたちの課題は、裏を返せば教師自身の課題でもある。育てたい子ども像に向けて、内容や方法を工夫しながら子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けて取り組みたいと考える。